

自分の考えを伝わりやすくするために、リーフレットの構成を考える力をつける。

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 吉野 有香

1. 単元名 市民に伝えよう！館山市の環境問題！
2. 学習材 「リーフレットで知らせよう」（教育出版 ひろがる言葉 4年国語上）
3. 単元について

(1) 本単元でつきたい力

本単元では、主に、小学校学習指導要領・国語〔第3学年及び第4学年〕の「A 知識及び技能」「B 書くこと」における以下の能力を身に付けさせることをねらいとしている。

A 知識及び技能

(2) 情報の扱いに関する事項

内容 イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。

B 書くこと

内容 ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。

ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。

オ 書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。

言語活動

ア 調べたことをまとめて報告するなど、事実やそれを基に考えたことを書く活動。

本単元では、学習教材「リーフレットで知らせよう」から、リーフレットの特徴や、引用したものの書き方、出典の書き方について理解をする。そして、総合的な学習「環境問題」で調べたことについて、リーフレットにまとめていく。

これらの学習を通して、市内に自分のリーフレットを掲示することを意識しながら、自分の伝えたいことを読み手にわかりやすく伝える力を高めることをねらいとする。

(2) 単元の目標

【知識及び技能】

○リーフレットを作成するにあたり、引用の仕方や出典の示し方を理解することができる。

(1 (2) イ)・・・㊦

【思考力・判断力・表現力等】

○読み手を意識して、自分が得た情報から必要な情報を選択し、リーフレットを作ることができる。

(2B (1) ア)・・・㊧

○自分の伝えたいことを表現するために、いろいろなリーフレットを見ながら、どのような構成にするとよいか考えることができる。(2B (1) ウ)・・・㊨

○友達とリーフレットを読み合い、自分の思いを伝えたり、友達の作品について自分の考えや意見を述べたりすることで、自分や友達の作品の良さに気が付くことができる。(2B (1) オ)・・・㊩

【学びに向かう力、人間性等】

○リーフレットの特徴に気付き、読み手を意識して、自分の伝えたいことが伝わるように、粘り強く構成を考え、リーフレットを作ろうとしている。・・・㊪

(3) 指導観

[見出す]

□本単元（本時等）の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に明示している。

①単元の目標や、読み手を知り、学習の見通しをもって取り組む。

本単元では、総合的な学習で調べた「環境問題」をリーフレットでまとめあげる。その際、リーフレットの特徴や引用、出典の書き方等を学習していく。

第一次で教師モデルと出会う。教師モデルのおすすめポイントとして、図や写真を交えながら、読み手を意識した言葉使いも考え作成したことを紹介する。また、完成したものは、市民が見るところに置き、実際に見てもらうことを伝え、子どもたちが「自分も作りたい」という意欲をもてるようにする。

実際に見てもらうためには、どのような過程でリーフレットの作成を行っていくのか、子どもたち

の言葉を拾ったり、今まで学習した内容を振り返ったりすることで、学習計画を作っていく。また、24人全員が同じ進捗で進んでいくことは考えられない。そのため、それぞれの学習進捗で進んでいくことを基本とするが、どの進捗の子どもでも、今の自分の学習地点を確認し、期日までに間に合うためには、どうしたらよいか考えながら学習を進めていけるように、作った学習計画を可視化して、クラス掲示しておく。そうすることで、学習の見通しをもたせ、個別最適な学びを図っていく。

〔自分で取り組む〕

□児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。

②教師モデルや、様々なリーフレットを見ることで、自分の思いを表現できる構成を考え作成する。

教師モデルの分析を行うことで、リーフレットの特徴（文字の大きさ、字体、図や写真の配置地所等）に気付き、それを生かして作成していく。また、実際のリーフレットを用意し、子どもたちが手に取り見ること、自分の思いを表現するための手助けとする。

また、文字が曲がってしまったり、それぞれの表現方法が異なったりすることが考えられるため、

(1) ファクス用紙 (2) マス目入りの下敷き (3) 白紙 (4) 色紙または折り紙を用意し、自分で使いたいものを選ぶようにする。

(1) に関しては、自分で好きな大きさに切り、それをA3の用紙に貼っていく。その後、教師がコピーをとり、最後に子どもが写真を貼っていく。

リーフレットに貼る写真に関しては、総合的な学習の際、講師で来ていただいた方たちからいただいた写真を活用していく。その際に、引用・出典を記載することを徹底していく。

〔広げ深める〕

□児童生徒が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定している。

③友達と作品を読み合い、考えを深めることができる。

友達とのライティング・カンファレンスを通して、自分の作品と比べることで、自分の作品の良さや構成の工夫に気付くことができると考える。また、友達の様々な考え方や表現方法に触れることで自分の考えを広げるきっかけになり、今後の学習につなげていくことができると考える。

〔まとめあげる〕

□児童生徒が板書やノート、作品等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定している。

④国語日記を書き、本単元で学んだことを振り返る。

国語日記（わかったことや工夫したこと）を単元の中で適宜行う。また、振り返りでは、ア、リーフレットを作って、どんなことを思いましたか。イ、工夫したところはどこですか。ウ、この学習を通してできるようになったことはなんですか。の3観点で振り返りを行う。上記3観点を振り返ることで、本単元で付いた力や、覚えたこと、自分の頑張り等を客観的に振り返り、自己肯定感を高めるとともに、メタ認知能力を育成していきたい。

4. 全体指導計画（10時間扱い）

次	時	主な学習活動	○教師の留意点 ☆評価（方法）
第一 次	1 本時	教師モデルと出会い、気が付いたことを付箋に書き、グループで共有する。 ・単元のゴールを知り、学習計画を作る。 ・教師モデルを見ながら、工夫されている点に見付き、黄色の付箋に書き、貼る。 ・気が付いたことをグループで共有し、ピンクの付箋に書く。	○教師モデルのコピーを1枚ずつ配付し、細かいところまで気が付けるようにする。 ○教師モデルを拡大コピーし、色が付いたものを見ることで、色の付け方やグラフ等の工夫にも気が付けるようにする。 ○気が付けない子どもがいる場合は、今まで作成してきたものを見せ、違うところに気が付けるようにする。 ○グループでの共有の時には、全員が話ができるように、リーダーを中心に進めていくことを伝える。 ○リーフレットの特徴を見つけるために意欲的に取り組んでいる。 (⊕付箋・発言)

	2	リーフレットと特徴について、共通理解をする。 ・リーフレットの特徴や、引用したものの書き方(かぎをつける)、出典の書き方について知る。	○教師モデルを拡大コピーし、リーフレットの特徴や工夫されているところを確認しやすいようにする。 ○引用したもの(かぎをつける)や、出典したものについて色分けをし、作成時に意識して取り組めるようにする。 ☆リーフレットの特徴や、引用したものの書き方、出典の書き方等を理解する。 (知)発言・ノート
第二次	3 4 5 6 7 8	リーフレットの構成を考え、作成する。 ・写真や図の配置、表現方法を考え、実際に書く。 ・下書きを参考にしながら、リーフレットを作成する。	○様々なリーフレットを用意し、構成や配置を考えることができるようにする。 ○下書き用の用紙(A3用紙)を用意し、実際に書き込みながら行ったり、付箋を活用し、どこにどの記事を書こうか、貼りながら構成を考えたりすることができるようにする。 ○下書きとまったく同じでなくてもよいことを伝え、自由にできるような環境を作っていく。 ○引用した内容にかぎがついているか、出典が書かれているかの確認をする。 ○構成に迷っている子どもには、教師モデルを見せたり、子どもの伝えたいことを聞き出したりしながら、一緒に構成を考える。 ○伝えたいことが表現できるように、色を使ったり、枠を作ったりと工夫している子どもがいたときは、共有する。 ☆伝えたいことが伝わるように工夫し、意欲的に取り組む。 (⊕)態度・リーフレット ☆読み手を意識して、自分が得た情報から必要な情報を選択し、リーフレットを作ることができる。(⊕)リーフレット
第三次	9	友達と読み合い、考えや意見を述べ合う。 ・リーフレットを読み合い、自分の考えや意見を伝える。	○ライティング・カンファレンスの質問事項(①おすすめポイントはどこ?②出来栄は何点?③工夫したところはどこ?④その工夫はうまくいった?⑤困っているところはある?)に沿って、自分の考えや意見を伝えさせる。 ☆リーフレットを読み合い、自分の思いを伝えたり、友達の作品について自分の考えや意見を述べたりすることで、自分や友達の作品の良さに気がついている。 (⊕)発言・ノート
第四次	10	学習のまとめ ・以下の学習の振り返りを行う。 ア、リーフレットを作った、どんなことを思いましたか。 イ、工夫したところはどこですか。 ウ、この学習を通して、できるようになったことはなんですか。	○3観点で振り返らせることで、自分の頑張りに気付いたり、達成感を味わわせたりする。 ☆単元全体の学習について、振り返ろうとしている。 (⊕)発言・ノート

本時の指導（1／10）

（1） 目標 教師モデルを繰り返し読んだり，友達と考えを共有したりすることで，リーフレットの特徴に気づくことができる。【主体的に取り組む態度】

（2） 展開

時配	学習活動と内容 ◎教師の発問・子どもの反応	○教師の支援 ☆評価（方法）
5	1. 教師モデルと出会う。 ・これ，すごい！ ・わかりやすい。 ・写真が入っていていい。 ・作りたい！	○作りたいと意欲が沸いたり，実際の用紙の大きさが実感できたりするように一人一枚ずつ配付する。 ○色の工夫にも気が付けるように，拡大コピーしたモデルも掲示する。
	リーフレットの特ちょうや工夫を見つけよう。	
5	2. 学習計画を立てる。	○リーフレットを完成させるために，どのような手順で行っていくのか考えられるように，最初に単元のゴールや読み手を伝える。
15	3. 特徴や工夫されているところ等，気が付いたことを黄色の付箋に書き，モデルに貼っていく。	○今まで作成してきた新聞やオリジナルブックとの違いに気づけるように声をかける。 ○良い気づきには，個別に声をかけ自信をもち，次の活動に参加できるようにする。 ○一人五枚の付箋を配布する。予備を教卓に置いておくことで，自分で取りに来られるようにする。 ○鉛筆が止まっている子どもには，今までの作成を見せ，同じ工夫がされているところに気が付けるようにする。 ☆リーフレットの特徴を見つけるために意欲的に取り組んでいる。
15	4. 特徴や工夫されているところ等，気が付いたことをグループで共有し，ピンクの付箋に書く。	（㊦付箋） ○グループで出た意見とわかるように，個人とは違う色の付箋を用意する。 ○話し合いが止まっているグループには質問をしたり，考えを聞いたりしながら，新しい気づきができるようにする。 ○個人で気が付いたところと区別ができるように，付箋の色を変える。
5	5. 国語日記を書く。 ◎今日わかったことは，どんなことだった？ ・写真とか図が入っていた。 ・いろんな形の文字とか，いろんな色を使っていて，見やすい。 ・文章の中に，図1では，とかの説明が書かれていた。 ・最後に，出典とか引用とか書いてあった。	○国語日記にわかったことを書くことで自分なりの振り返りをする。 ○机間指導をしながら，自分の考えを書いている子どもを賞賛する。 ○机間指導をし，子どもたちが書いた内容を把握する。 ○机間指導をしながら，書くことに戸惑っている子どもには，今日使った教師モデルや友達からの付箋を見ながら，日記を書くように声をかける。